

魚沼地域農業の課題の解決に

に向けた本年度の重点的な取組

●担い手の受入と育成の体制づくり支援 ～ユリ切り花産地の100年継続に向けた取り組みについて～

魚沼の花き産地は、戦後間もない昭和23年の「堀之内町花き園芸組合」設立から、今後も産地が長く継続・発展していくことを目指し、「100年継続産地」をスローガンに活動しています。

令和4年12月、魚沼花き産地の農業者を中心に、「産地の維持・発展に向けた担い手を考える会」を設置し、新たな担い手の確保・育成のしくみづくりや法人化等の経営体質強化の取組を進めています。

本年度は、検討メンバーに若手農業者や後継者を新たに加え、4月から活発な話し合いを展開しています。

魚沼の花き産地には、100年産地継続への途切れない情熱が脈々と息づいています。

普及センターはその思いに寄り添い、考える会の活動を関係機関・団体と連携し、継続して支援します。



考える会の若手による勉強会

ユリ切り花産地見学会

●持続的に発展する園芸産地の育成 ～たらの芽、うるい、ふきのとう産地の拡大～

魚沼地域では、園芸振興基本戦略を踏まえ「たらの芽」、「うるい」、「ふきのとう」の産地発展ビジョンの作成を支援し、実践に向けた取組を進めていきます。

今年度は、特に新規生産者・既存生産者の育成を重点に、園芸参入塾の開催と個別技術指導に力を入れ、さらなる産地拡大につなげていきます。

【主な取組内容】

- 園芸参入塾（ふきのとう）による新規生産者・既存生産者の育成
- 多様な人材活用による労働力の確保
- 高品質・安定生産に向けた技術指導（病虫害防除技術の実証、単収向上に向けた重点指導）
- 圃場整備地区等への導入推進



面積拡大で生産量拡大が期待されるたらの芽



ふきのとう参入塾を昨年に引き続き開催



うるいは巡回指導で高品質化を目指す

●魚沼米ブランド力の維持・強化

異常高温下でも収量・品質を確保するため、後期栄養確保等の技術対策の実践や、生育状況を踏まえた的確な情報発信により、魚沼米の安定生産に取り組めます。

【令和7年の重点技術対策】

- 後期栄養確保…生育診断に基づく適正な穂肥と水管理の徹底
- 適期中干しの実施（大柄にしないイネづくり）
- 病虫害対策（斑点米カメムシ類）
- コシヒカリの品質確保が可能な作付計画と作期分散



現地研修で生育状況を確認

ICT機器も活用しての情報発信



●力強い農業構造の確立と中山間地域農業の発展

長松集落では、営農の継続や集落機能の維持に向けて、昨年度策定した将来プランの実践を進めています。

同集落では、地区内の2法人と担い手農家の代表により組織を立ち上げ、ドローンによる共同防除を実施することとしており、大幅な省力化が期待されます。

普及センターでは、効率的かつ効果的な防除に向けた計画の作成などを支援します。

また、共同防除作業を契機に、集落内の2法人と個別担い手農家による新たな営農体制づくりに向けた話し合いを支援します。



ドローンによる共同防除が始まり、今後の営農体制の検討を深めます。

●農業法人等の経営体質強化

普及センターでは、農業法人や個別経営体が個々に抱えている規模拡大や資本装備、雇用の確保、経営継承、法人化など様々な経営課題について、外部の専門家等からの助言を活用しながら、その解決に向けて支援します。

【具体的な支援の内容】

- 地域の雇用や農地の受け皿となる法人を目指し、経営力向上や改善計画の策定。
- 第三者継承に向けた課題の整理と継承計画の作成。
- 経営基盤の強化や事業拡大を目指し法人化を検討する経営体の取組 など。



経営課題の解決に向けて支援します。